

・ 姫路赤十字病院

卒後臨床研修非専攻者用カリキュラム

- ・ 整形外科
- ・ 皮膚科
- ・ 泌尿器科
- ・ 眼科
- ・ 耳鼻咽喉科
- ・ リハビリテーション科
- ・ 形成外科
- ・ 放射線科
- ・ 脳神経外科

整形外科（非専攻：1ヶ月用）

・救急医療

一般目標：

運動器救急疾患・外傷に対応できる基本的診療能力を習得する。

行動目標：

1. 多発外傷における重要臓器損傷とその症状を述べることができる。
2. 骨折に伴う全身的・局所的症状を述べることができる。
3. 神経・血管・筋腱損傷の症状を述べることができる。
4. 脊髄損傷の症状を述べることができる。
5. 多発外傷の重症度を判断できる。
6. 多発外傷において優先検査順位を判断できる。
7. 開放骨折を診断でき、その重症度を判断できる。
8. 神経・血管・筋腱の損傷を診断できる。
9. 神経学的観察によって麻痺の高位を判断できる。
10. 骨・関節感染症の急性期の症状を述べることができる。

・慢性疾患

一般目標：

適正な診断を行うために必要な運動器慢性疾患の重要性と特殊性について理解・習得する。

行動目標：

1. 変性疾患を列挙してその自然経過、病態を理解する。
2. 関節リウマチ、変形性関節症、脊椎変性疾患、骨粗鬆症、腫瘍のX線、CT、MRI、造影像の解釈ができる。
3. 上記疾患の検査、鑑別診断、初期治療方針を立てることができる。
4. 腰痛、関節痛、歩行障害、四肢のしびれの症状、病態を理解できる。
5. 理学療法処方の理解ができる。
6. 病歴聴取に際して患者の社会的背景やQOLについて配慮できる。

・基本手技

一般目標：

運動器疾患の正確な診断と安全な治療を行うためにその基本的手技を習得する。

行動目標：

1. 主な身体計測(ROM、MMT、四肢長、四肢周囲径)ができる。
2. 疾患に適切なX線写真の撮影部位と方向を指示できる(身体部位の正式な名称がいえる)。
3. 骨・関節の身体所見がとれ、評価できる。

4. 神経学的所見がとれ、評価できる。

. 医療記録

一般目標：

運動器疾患に対して理解を深め、必要事項を医療記録に正確に記載できる能力を習得する。

行動目標：

1. 運動器疾患について正確に病歴が記載できる。

主訴、現病歴、家族歴、スポーツ歴、外傷歴、アレルギー、内服歴、治療歴

2. 運動器疾患の身体所見が記載できる。

脚長、筋萎縮、変形（脊椎、関節、先天異常）、ROM、MMT、反射、感覚、歩容、ADL

3. 検査結果の記載ができる。

画像（X線像、MRI、CT、シンチグラム、ミエログラム）、血液生化学、尿、関節液、病理組織

4. 症状、経過の記載ができる。

5. 診断書の種類と内容が理解できる。

退院サマリー、手術記

皮膚科（非専攻：1ヶ月用）

・一般目標（GIO：General Instructional Objectives）

- 1) 皮膚科の診断・治療に関する基本的で最低限必要な知識と技術を効率よく短期間で確実に修得する。
- 2) 皮膚科関連領域の知識と技術を修得する。
- 3) 必要があればしかるべき施設に相談できる。

・行動目標（SBO：Specific Behavioral Objectives）

A) 経験すべき診察法・検査・手技

A - 1) 基本的診察法

- 1: 皮膚の構造と機能が理解できる。
- 2: 皮膚病変を観察し、発疹の形態、部位、性状等を客観的に記載できる
- 3: 患者の臨床経過・全身状態を正しくカルテに記載できる。
- 4: 患者の緊急事態に対する primary care ができる。
- 5: 確定診断及び治療に至るまでの planning ができる。

A - 2) 修得すべき基本的な検査・手技

- 1: 貼付試験
- 2: 皮内テスト
- 3: 光線テスト
- 4: 真菌鏡検
- 5: 皮膚生検

A - 3) 修得すべき基本的治療法

- 1: 軟膏療法（外用剤全般の使用法）の基本が理解できる。
- 2: 光線療法の基本が理解できる。
- 3: 副腎皮質ホルモン剤内服の適応と適切な投与方法
- 4: 抗ヒスタミン剤、抗アレルギー剤の適応と適切な投与方法
- 5: 抗真菌剤内服の適応と投与方法
- 6: 細菌感染症に対する抗生物質の適切な選択法
- 7: ウイルス感染症に対する抗ウイルス剤の適切な使用法
- 8: 冷凍凝固法の基本的な治療法

B) 経験または理解すべき病状・病態・疾患

- B - 1) 湿疹・皮膚炎群
- B - 2) ジンマシン
- B - 3) 皮膚掻痒症
- B - 4) ザソウ
- B - 5) 真菌感染症
- B - 6) ウイルス感染症（ユウゼイ、ヘルペス）
- B - 7) 細菌感染症

B - 8) 薬疹

B - 9) 虫刺症、動物こう症

B - 10) 脱毛症

. 到達目標

A - 1) ・ 基本的診察法 (上記 A - 1 の 1 から 5 項) について習熟する。

A - 2) ・ 修得すべき基本的な検査・手技 (上記 A - 2 の 1 から 5 項) について習熟する。

A - 3) ・ 修得すべき修得すべき基本的治療法 (上記 A - 3 の 1 から 8 項) について習熟する。

B - 1) ・ 経験すべき病状・病態・疾患 (上記 B - 1 から B - 10) について、十分に理解し、習熟する。

泌尿器科（非専攻：1ヶ月用）

・一般目標（GIO：General Instructional Objectives）

- ・泌尿器科医となるべき基本的知識・技能を修得する。
- ・泌尿器科救急的疾患に対応しうる手順等が適切に述べられる。
- ・泌尿器科における症例を理解し、症例呈示できる。
- ・泌尿器科におけるチーム医療が理解でき、実行できる。
- ・患者および家族との信頼関係を築ける。
- ・安全な医療を遂行し、安全管理の方策を身につける。

・行動目標（SBO：Specific Behavioral Objectives）

A）経験すべき診察法・検査・手技

- A - 1）基本的診察法
- A - 2）検査法
- A - 3）画像診断法
- A - 4）処置
- A - 5）治療

B）経験すべき病状・病態・疾患

- B - 1）排尿困難
- B - 2）血尿
- B - 3）陰嚢の腫大
- B - 4）疝痛発作
- B - 5）膀胱癌
- B - 6）尿路結石
- B - 7）神経因性膀胱
- B - 8）尿路性器感染症

C）特定の医療現場の経験

- C - 1）救急疾患の対応
- C - 2）緩和終末期医療

・到達目標

A - 1）

- ・腎部に対する適切な触診ができ、記載できる。
- ・外陰部に対する適切な視診、診察ができ、記載できる。
- ・前立腺に対する適切な触診ができ、記載できる。

A - 2）

- ・検尿ができる。
- ・尿培養の結果が理解でき、使用薬剤を選択できる。
- ・超音波検査が適切にできる。

- ・造影検査（IVP、RP、UCG等）が適切にできる。
- ・ウロダイナミックス検査の手順が理解できる。

A - 3)

- ・尿路造影検査の読影ができる。
- ・前立腺・陰嚢部の画像診断ができる。

A - 4)

- ・導尿法が適切にできる。
- ・穿刺法の手順を理解できる。
- ・尿路カテーテル留置、交換の手順を理解できる。
- ・腎臓、膀胱洗浄が適切にできる。
- ・前立腺マッサージができる。

B - 1) 排尿困難をきたす疾患を理解し、その治療を述べられる。

B - 2) 血尿をきたす疾患の鑑別ができ、その検査法を述べられる。

B - 3) 陰嚢の腫大をきたす疾患の鑑別ができる。

B - 4) 疝痛発作をきたす疾患の鑑別診断ができ、その検査法を述べられる。

B - 5) 尿閉をきたす疾患の鑑別診断ができ、その処置法を述べられる。

B - 6) 膀胱癌の診断ができ、その治療法を述べられる。

B - 9) 尿路結石の診断ができ、その治療法を述べられる。

B - 10) 神経因性膀胱の診断ができ、その治療法を述べられる。

B - 11) 尿路性器感染症の診断ができ、その治療法を述べられる。

C - 1)

- ・急性陰嚢症の鑑別診断が言える。
- ・尿閉に対して適切な導尿法（経尿道、経膀胱）の選択できる。
- ・尿路結石に対して対応ができる。
- ・外傷に対する適切な治療法が選択できる。

C - 2)

- ・心理社会面への配慮ができる。
- ・緩和ケアに参加できる。
- ・告知をめぐる諸問題への配慮ができる。

眼科（非専攻：1ヶ月用）

．一般目標（GIO：General Instructional Objectives）

- 1) 眼科臨床に必要な基礎的知識、診断技術、治療技術を修得する。
- 2) 他科を専攻する場合においても緊急を要する疾患に対する適切な対応、慢性疾患に対する管理の仕方を修得する。

．行動目標（SBO：Specific Behavioral Objectives）

A) 経験すべき診察法・検査・手技

- A - 1) 眼疾患患者に対する問診
- A - 2) 視力検査、視野検査、眼圧検査
- A - 3) 細隙灯検査、眼底検査

B) 経験すべき病状・病態・疾患

- B - 1) 屈折異常
- B - 2) 角結膜炎
- B - 3) 白内障
- B - 4) 緑内障
- B - 5) 糖尿病、高血圧、動脈硬化による眼底変化

．到達目標

- A - 1) ・問診にて、ある程度の疾患が予想できる。
 - ・問診にて、どんな検査をすればよいか判断できる。
- A - 2) ・裸眼視力と矯正視力を測定できる。
 - ・非接触型眼圧計と圧平型眼圧計にて眼圧を測定できる。
 - ・ゴールドマンとハンフリーの視野測定ができる。
- A - 3) ・角膜、前房、水晶体の異常の有無を診察できる。
 - ・眼底の異常の有無を診察できる。
- B - 1) ・近視、遠視、乱視、老視を理解して矯正視力を測定できる。
- B - 2) ・典型的な角結膜炎の診断、治療ができる。
- B - 3) ・白内障の有無、程度を診断できる。
- B - 4) ・緑内障の有無、分類ができる。
- B - 5) ・糖尿病網膜症、高血圧性眼底の程度分類ができる。

耳鼻咽喉科（非専攻：1ヶ月用）

．一般目標（GIO:General Instructional Objectives）

1) 耳鼻咽喉科医となるべき基本的知識・技能を修得する。

．行動目標（SBO:Specific Behavioral Objectives）

A) 経験すべき診察法・検査・手技

A - 1) 基本的診察法

A - 2) 聴覚検査法

A - 3) 画像検査法

B) 経験すべき病状・病態・疾患

B - 1) 耳痛、耳漏、発熱（外耳炎、急性・慢性中耳炎など）

B - 2) 難聴、耳閉感、耳鳴り、めまい（耳垢栓塞、急性・慢性中耳炎、突発性難聴、メニエール病など）

B - 3) くしゃみ、鼻漏・後鼻漏、鼻閉（アレルギー性鼻炎、急性・慢性副鼻腔炎、鼻中隔湾曲症など）

B - 4) 鼻出血

B - 5) 咽頭痛、発熱（急性・慢性扁桃炎、急性・慢性咽喉頭炎など）

B - 6) いびき、睡眠時無呼吸（扁桃肥大、アデノイド肥大など）

B - 7) 咳、痰、嘔声（急性・慢性喉頭炎、声帯ポリープなど）

．到達目標

A - 1) ・額滯鏡、耳鏡、鼻鏡、舌圧子、間接喉頭鏡、鼻・咽喉ファイバースコープ
鉗子、薬物スプレーなどを適切に使用して耳鼻咽喉科領域の視診ができ局
所所見を正確に記載できる

A - 2) ・純音聴力検査（気導、骨導、マスキング）ができる
・ティンパノメトリー、アブミ骨筋反射検査ができる

A - 3) ・耳、鼻単純X線の読影ができる

B - 1) ・耳痛、耳漏、発熱を生じる疾患の鑑別診断、治療法が適切に述べら
れる

B - 2) ・難聴、耳閉感、耳鳴り、めまいを生じる疾患の鑑別診断、治療法が適切に
述べられる

B - 3) ・くしゃみ、鼻漏・後鼻漏、鼻閉を生じる疾患の鑑別診断、治療法が適切に述
べられる

B - 4) ・出血部位の診断、治療法が適切に述べられる

B - 5) ・咽頭痛、発熱を生じる疾患の鑑別診断、治療法が適切に述べられる

B - 6) ・いびき、睡眠時無呼吸を生じる疾患の鑑別診断、治療法が適切に述べられる

B - 7) ・咳、痰、嘔声、咽喉頭異常感を生じる疾患の鑑別診断ができ、治療法が適切に述
べられる

リハビリテーション科（非専攻：1ヶ月用）

1) 目的

リハビリテーションについて短期間に一定の基礎的知識と診療技能のポイントを修得することを目的とする。

2) 教育課程

1. 研修内容

一般臨床医として必要なリハビリテーションの基本的知識と技術を修得し、医師として必要な姿勢を学ぶ。

2. 到達目標

(1) 基本的な診察能力を個々の症例から修得する

- A) 面接技法（患者、家族との適切なコミュニケーションの能力）
- B) 全身の観察（バイタルサイン、精神状態などの観察）
- C) 骨・関節・筋肉の状態観察
- D) 神経学的診察（脳神経・脊髄神経）

(2) リハビリテーションの検査と基本的評価

筋力検査（MMT）

関節可動域（ROM）

関節の機能評価

脳神経の機能評価

ADLの評価

歩行能力の評価

小児の成長発達の評価

(3) 理学療法と作業療法の実際

(4) 車椅子・杖・自助具の実際

(5) リハビリの処方の仕方

3) 実際に経験すべき症例

脊髄変性疾患・脊髄・馬尾神経障害の患者

人工関節置換術（股・膝）の患者

関節障害（上肢・下肢）の患者

骨折（上肢・体幹・下肢）の患者

小児の成長・発育障害

老人の廃用性障害

脳血管障害

4) 教育に関する行事

回診やカンファレンスに積極的に参加してもらう。希望があれば小児障害者施設や特別養護老人施設への見学なども実施する。

5) 指導体制

リハビリテーション科は医師1人レジデント2人の3人であるので医師やレジデントとペアを組み実際の患者の診療を協力して行う。実際の診療の中から必要な知識と技術を学ぶ、考えながら身に付けることをめざす。

6) 評価方法

研修の評価にあたっては、卒後臨床研修指導委員会の基準に基づき自己評価を行い、また、指導医は自己評価の結果を随時点検し、研修医の到達目標達成を援助する。

研修プログラムにおける1ヶ月と4ヶ月の違いは担当症例の数の違いである。やはり4ヶ月のほうがより多くの患者を受け持つことが可能であり、知識の量も多く、経験の深さもより深いものとなる。

形成外科（非専攻：1ヶ月用）

・一般目標（GIO：General Instructional Objectives）

- 1) 形成外科が対照とする疾患を理解し、述べる事が出来る。
- 2) 正しいwound care が出来る。
- 3) 基本的な形成外科の手術手技を理解する。
- 4) 褥瘡の正しい処置が出来る。

・行動目標（SB0：Specific Behavioral Objectives）

A) 経験すべき診察法・検査・手技

- A - 1) 熱傷処置
- A - 2) 皮膚、皮下縫合と手術創の取り扱い
- A - 3) ほくろ、母斑に対するレーザー治療
- A - 4) 小腫瘍（顔面以外）の摘出手術

B) 経験すべき病状・病態・疾患

- B - 1) 熱傷の処置と植皮
- B - 2) 各ステージの褥瘡とステージに応じた処置
- B - 3) 皮膚縫合ができる
- B - 4) 皮弁の考えと血行が理解出来る

・到達目標

- A - 1) ・形成外科が取り扱う疾患を理解する
 - ・形成外科で使用する薬剤、治療用具と用途を理解する
- A - 2) ・顔面外傷の診察の手順を理解する
 - ・顔面骨骨折のレントゲン、CTの読影を理解する
- B - 1) ・皮膚悪性腫瘍の病態を理解する

放射線科（非専攻：1ヶ月用）

．一般目標（GIO：General Instructional Objectives）

- 1) 放射線画像診断全般についての知識を得る
- 2) 放射線治療の概略を理解する
- 3) 血管造影の概略を理解する

．行動目標（SBO：Specific Behavioral Objectives）

- A) 理解すべき検査・手技
 - A - 1) 胸部レントゲン写真
 - A - 2) 上・下部消化管透視
 - A - 3) CT・MRI・RI・血管造影
- B) 理解すべき治療手技
 - B - 1) 放射線治療

．到達目標

- A - 1) ・正常胸部単純X線像の理解
- A - 2) ・消化管透視写真の読影法の習得
- A - 3) ・CT・MRI・RI・血管造影、各画像診断の適応の理解
 - ・CT・MRI・RI・血管造影、各画像診断の概略の理解
 - ・CT・MRIの撮像法と造影手技の習得
- B - 1) ・放射線治療の適応の理解
 - ・照射患者の管理の理解

脳神経外科（非専攻：1ヶ月用）

・一般目標（GIO：General Instructional Objectives）

脳神経外科的医療に対する社会的ニーズを認識しつつ、日常診療で頻繁に遭遇する病気や病態に適切に対応できるよう、プライマリケアの基本的診療能力（態度、知識、技能）を身につけることを目標とする。

具体的には、主治医と共に担当医としてスタッフの指導の下に入院患者の診療に当たり、医師としての基本的診療姿勢を身に付けると共に、脳神経外科疾患に対する知識、検査技術を深める。脳神経外科の救急輪番、一般当直の副直が義務付けられ救急外来を受診する重症患者の救急処置および術前・術後管理等について指導を受ける。

また、病棟回診による指導を毎朝受け、更に定期的に下記のスケジュールにより研修の機会を得る。

月曜日： 総回診、血管造影、症例カンファレンス

火曜日： 予定手術

水曜日： 総回診、血管造影、血管内治療、症例カンファレンス

木曜日： 予定手術

金曜日： 総回診、血管造影、症例カンファレンス、抄読会

・行動目標（SB0：Specific Behavioral Objectives）

A）経験すべき診察法・検査・手技（下線の検査は必ず経験のこと）

基本的な身体検査法

- ・ 神経学的診察ができ、正確に記載できる
- ・ 意識障害の評価ができ、記載できる

基本的臨床検査

- ・ 神経放射線学的検査（C T、M R I、脳血管造影、脊髄造影、C T脳槽造影）
- ・ 髄液検査

基本的手技

- ・ 脳血管造影の介助ができる
- ・ 腰椎穿刺が実施できる
- ・ 創部消毒、ガーゼ交換ができる
- ・ 脳室・脳槽ドレナージの管理ができる
- ・ 術前・術後管理ができる

基本的治療法（自ら経験すること）

- ・ 頭皮縫合ができる
- ・ 穿頭術等の手術介助ができる

医療記載

- ・神経学的所見が正確に記載できる
- ・CT、MRI所見の記載ができる

B) 経験すべき病状・病態・疾患

頻度の高い症状

- ・頭痛
- ・めまい
- ・失神
- ・ケイレン発作
- ・視力・視野障害
- ・聴力障害
- ・嘔声、嚥下障害
- ・四肢のシビレ
- ・尿量異常
- ・筋力低下
- ・感覚障害
- ・言語障害

緊急を要する症状・病態

(下線の症状・病態につき、スタッフと共に診断・診療すること)

- ・意識障害
- ・頭蓋内圧亢進症状
- ・ケイレン重積
- ・脳血管障害
- ・頭部外傷
- ・脳炎、髄膜炎

. 到達目標

患者・家族との適切な信頼関係を形成する能力を身につける。

病歴を適格に聴取、記録できる。

意識障害患者を含めて、神経学的所見をとることができる。

病歴、理学所見より検査計画を指導の下に立案できる。

術前・術後の全身所見を把握し、指導の下に管理できる。

頭部CT・MRIなどの基本的な読影ができる

脳神経外科的救急疾患の診断、治療法の理解を深める

消毒法、創部処置、髄液検査などを習得する。